



Title	中国の被災コミュニティにおけるソーシャル・キャピタルの有効性の違い：都市コミュニティ、移行期コミュニティ、農村コミュニティの比較に着目して
Author(s)	王, 藝璇
Citation	未来共創. 2024, 11, p. 25-56
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/97810
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

中国の被災コミュニティにおけるソーシャル・キャピタルの有効性の違い

都市コミュニティ、移行期コミュニティ、農村コミュニティの比較に着目して

王 藝璇

要旨

災害対応において重要な概念であるソーシャル・キャピタル（SC）は、地域によりその有効性に違いがある。過去の研究は農村部と都市部のコミュニティに焦点を当ててきたが、中国のような急速な都市化が進む発展途上国では、新たな「移行期コミュニティ」が出現している。しかし、これまでの研究ではこれらのコミュニティのSCの役割に関する検討が不足している。

本研究では、質的なアプローチを用いて、中国河南省の洪水被災地域を研究対象とし、都市、移行期、農村の3つのコミュニティでSCの有効性の違いを調査した。

分析結果により、災害直後、全てのコミュニティで結束型SCが重要であったが、時間とともにリンク型SCの効果が見られた。また、SCの有効性はコミュニティの種類により違う。都市コミュニティは地理的に有利な位置にあるため、外部からの援助をより多く受けることが可能であるが、結束型SCが災害後希薄化する傾向がある。移行期コミュニティの管理が混乱し、住民関係が分断されているため、SCの有効性は低い。農村コミュニティは内部的な繋がりが密接であり、結束型SCと地元政府のリンク型SCが機能したが、辺鄙な場所に位置し、交通が不便であるため、外部からの支援を受ける機会が少ないという課題がある。

キーワード

ソーシャル・キャピタル（SC）、都市コミュニティ、移行期コミュニティ、農村コミュニティ、中国河南省「7・20」洪水災害

大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程；u299938d@ecs.osaka-u.ac.jp

目次

はじめに

1. 先行研究

- 1.1 SCの概念と本論の位置づけ
- 1.2 SCがコミュニティの災害対応において果たす役割
- 1.3 コミュニティの種類と中国の文脈におけるコミュニティの概念

2. 調査概要

- 2.1 研究対象地
- 2.2 調査方法
- 2.3 三つのコミュニティの被災状況（2021年）と一年後の回復状況の概要（2022年）

3. 調査結果

- 3.1 都市コミュニティA
- 3.2 移行期コミュニティB
- 3.3 農村コミュニティC

4. 考察

- 4.1 災害後の異なる段階から見るSCが三つのコミュニティにおける有効性の違い
- 4.2 各コミュニティにおけるSCの有効性の違いとコミュニティの特性との関連性

終わりに

はじめに

地球温暖化に伴い、増加する降水量と海面上昇により、生命を脅かす洪水災害に晒される地域が増えている。中国は季節風気候地域に位置し、降雨量が頻繁で、広範な河川流域と高い人口密度があり、洪水災害の影響は非常に深刻である。2021年7月17日から23日まで、中国では「1000年に一度の大雨」と呼ばれる記録的な大雨が降り、河南省鄭州市ではわずか3日間で年平均降雨量に相当する雨量があった。大雨で洪水が発生し、河南省の150の県と都市部、1663の郷と村にまたがる145万3600人が被災した。破壊された家屋は3万106棟、直接的な経済損失は1142億6900万人民币元にのぼった。この災害は「7.20河南洪水災害」とも簡称されている。この洪水災害により302人の命が奪われ、50人が行方不明となった(中国国務院 2021)。

災害が頻発することを背景にし、コミュニティの災害対応を高めることが重要になる。ソーシャル・キャピタル(略称:SC)という概念は災害対応を検討する際によく使用されるツールの一つである(Norris 2008)。SCは、信頼、協力、ネットワークなどの要素を包括する概念である(Putnam 1993, 2000; Szreterほか 2004; Lin 2008)。多くの文献が共通して指摘しているのは、SCが資源として、被災者がより迅速に支援を受け、より効果的に情報を伝達し、共同協力を促進することで、コミュニティの復興スピードを効果的に高めることができる、ということである(Onyxら 2007; 大谷 2013)。SCは災害対応を研究する際に重要なツールであることはコンセンサスが得られつつあるが、それぞれの社会環境が持つ特徴の差異によって、その有効性が異なって発揮される可能性がある(Dasgupta 2005; 埴淵 2018)。それゆえに、災害対応におけるSCの機能を検討する際に、地域性、あるいは異なる社会環境がSCに影響を与えているという点も考慮される必要がある。

今までの研究は通常、都市コミュニティまたは農村コミュニティに焦点を当てている。Cutterほか(2016)は都市コミュニティと農村コミュニティの災害対応の違いを比較した。Rapaportほか(2018)は、都市郊外コミュニティの対応を追加して検討した。しかし、急速な都市化段階にある発展途上国(例えば中国)では、現在、農村部から都市部への大規模な移動と都市内の移動の加

速化を特徴とし、新しいタイプのコミュニティである「移行期コミュニティ」が登場している（van Oostrum 2021）。移行期コミュニティは通常、住宅の品質が低く、居住環境が劣悪であり、住民の流動性が強く、人口構成も複雑である（阿古2014）。また、移行期コミュニティの災害対応の実態が未解明であり、災害対応におけるSCの有効性の違いに関する検討が不十分という課題が存在している。

上記の背景を踏まえて、本研究は災害に直面するコミュニティを研究対象とし、SCの有効性の違いを研究する。具体的には、質的なアプローチを用いて、中国河南省の洪水被災地域を研究ケースとして選び、都市コミュニティ、移行期コミュニティと農村コミュニティにおけるSCの有効性の違いを調べた。本研究は河南省で最も深刻な被害を受けた地域における都市コミュニティA、移行期コミュニティBと農村コミュニティCを対象にし、参与観察と半構造化インタビューを行って、災害対応におけるSCの有効性の違いを調べた。

1. 先行研究

この部分では、SCの概念、SCがコミュニティの災害対応において果たす役割と中国のコミュニティに関する研究を検討した上で、本研究の位置づけを明確にする。

1.1 SCの概念と本論の位置づけ

災害対応の議論において、よく使われる理論はSCである。SCは、様々な論者によって、その意味を広範かつ多様に示されてきた概念である。本論文としては、SCが災害後のコミュニティの対応にどのような役割を果たすのかを念頭におきながら、SCに関する議論について概観する。

Putnam（1993）はSCを人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「互酬性の規範」「ネットワーク」といった社会的仕組みの特徴と定義している。この定義が広く受け入れられ、SCに関する議論では頻繁に引用されるに至った。Lin（2008）はSCを「社会関係と社会構造に埋め込まれた資源であり、何らかの目的の実現を目指して行為する人々が成功の可能性を増やしたいときに用いるものである」と指摘した。

Aldrich (2012)はLinの研究に基づいて、ネットワークの視点からSCを結束型、橋渡し型、リンク型といったソーシャル・ネットワークを通して伝達される規範や情報、そして利用可能な資源と定義している。

SCの概念は、今まで確立した定義に至っていない。現在のSCに関する研究を総合すると、この概念は「規模」と「形式」という二つの次元で構築されている(Grootaert ほか2001; 稲葉&吉野 2016)と考えられる。

「規模」は主に個人(ミクロ)と集団(マクロ)の区分を指す。Putnamは集団レベルの特性を強調し、地域レベルの分析を主導する一方で、Linは個人間のネットワークに着目する。本論文は集団レベル、主にコミュニティレベルのSCに焦点を当てている。

「形式」は、認知的側面と構造的側面が含まれる。認知的側面は共通の規範、価値観、信頼、態度、信念などより主観的な概念である(Uphoff 2000)。構造的側面は、ネットワークや規則を強調する。Lin (2008)のSCネットワークに関する研究を基に、Aldrich (2012)は、結束型、橋渡し型、リンク型の3種類のネットワークを定義している。彼は災害時に情報が交換され、重要な資源が共有される横断的および縦断的な連携に焦点を当てている。

具体的には、結束型は、家族、親しい友人、隣人など、「一緒にいる人」、「同じような人」のような関係であり、強固な親密関係を持つ人々の間で醸成される。メンバー間の関係密度が高いネットワークであると言える(Putnam 2000; Claridge 2018)。本研究では、家族、親戚、友人、近隣を結束型SCと定義している。

橋渡し型SCとは、社会を分断すると見られる社会的要素(人種、階級、宗教など)を超えて人々を結びつけるつながりを表すものである(Szreter ほか 2004; Aldrich & Meyer 2015)。つまり、コミュニティやグループ、組織間の「橋渡し役」である。本研究では、コミュニティ外の知人やボランティア団体などの組織は橋渡し型SCとして定義されている。

この二つに加え、「リンク型」も多くの研究者によって注目されている。リンクとは、社会における明示的、形式的、制度的な権力や権威の勾配を超えて交流する人々間の信頼ネットワークのことである(Szreter ほか 2004)。結束型と橋渡し型は主に立場の近い人同士の関係を対象としているのに対し、

リンク型は縦の関係に着目する (Aldrich 2012)。本研究では、被災地域の各級政府、および外地の政府、中央政府、専門家をリンク型SCとして定義している。

構造的なSCの分類に関する議論は現在も続いている。まず、個人と他者との間に実際に多重で複雑な関係が存在していることを考えると、結束型、橋渡し型、リンク型のSCを明確に区別することは困難である (Healy 2002)。そして、リンク型SCに関する区分にも異論がある。初めてリンク型SCを提唱した Szreter & Woolcock (2004) はリンク型SCを橋渡し型SCの一部と位置づけられるとしたが、リンク型SCを結束型SCと橋渡し型SCと並列する第三のSCとして捉える研究もある (Aldrich 2012; Claridge 2018)。本研究では、リンク型SCを結束型SCと橋渡し型SCと並列する第三のSCとして位置づけている。その理由は、中国の災害対応において、政府主導に基づくトップダウン型の復興策が主流であると多くの研究で指摘されているからである (蔡 2016; 大谷 2021)。本研究では、中国のコミュニティを研究対象としているため、垂直的なリンク型SCが果たす役割が重要になってくる。

本研究は、中国での事例を研究対象として取り上げて、災害後の構造的SCの役割に重点を置き、特に集団レベル(コミュニティ)のSCに焦点を当てている。

1.2 SCがコミュニティの災害対応において果たす役割

ここで、結束型、橋渡し型とリンク型SCがコミュニティの災害対応において果たす役割に関する研究を検討する。まず、結束型SCは、被災した住民に対して、物質的・精神的な側面への対応を含め、最も迅速な支援を提供することができる」とされている (Aldrich 2012; Aldrich & Meyer 2015)。災害後の最初の数時間に緊急搜索と救助に関わった主なメンバーは、近隣（つまり、結束型ネットワークのメンバー）である。また、橋渡し型SCが被災住民と他のコミュニティや、ボランティア組織とのコンタクトを可能にし、災害後の長期的な復興の速度を上げることができる (Aldrich & Meyer 2015; 今井ほか 2015)。最後に、リンク型の役割には、住民が政府や専門家と迅速につながることを可能にし、それによって災害救援のための援助を受ける機会を増や

すことにある (Bernier & Meizen-Dick 2014; 佐々木ほか 2020)。災害後の回復期間から見ると、結束型SCは災害直後の緊急期に重要な役割を果たし、橋渡し型とリンク型SCは復興段階でより重要な役割を果たす。本研究は、災害直後(2ヶ月以内)の救援活動と、災害から1年後の回復過程でのSCの有効性に焦点を当てている。

その一方、SCは強い地域性がある (Putnam 1993; Mohanほか 2005; 埴淵 2018)。Aldrich (2012) が述べるには、強固なSCがある地域は、必要な情報と支援にアクセスでき、より早く回復することができる。反対に、SCが十分でない地域やコミュニティは、幅広いネットワークを持つ地域の復興スピードについていけない可能性がある。高学歴で裕福なコミュニティは、よく組織され、政治的結びつきが強い傾向がある (Williamson 2013) が、既存の社会的な不平等、特にマイノリティや女性に対する差別も、SCの動員によって強化される可能性がある (Ganapati 2013)。

SCの役割は置かれている背景によって異なることが多くの研究で指摘されている (Dasgupta 2005; Szreterほか 2004; Putnam 2000; Yila & Weber 2013; 蔡 2016)。SCのこの特徴は「inherently contextual 環境依存性」(筆者翻訳)と呼ばれる (Bernier & Meizen-Dick 2014; 蔡 2016)。まとめてみると、SCがどのように役割を果たすのかは、それ自体、既に存在する社会構造に影響されるのである。

1.3 コミュニティの種類と中国の文脈におけるコミュニティの概念

コミュニティの種類とは、一定の分類基準の下でコミュニティが示す社会的属性である (Christenson & Robinson 1989)。しかし、コミュニティの複雑さゆえに、定められた分類基準がない (Crow & Allan 1995)。Wirth (1938) は、都市化しつつあるコミュニティを、規模、密度、異質性の3つの側面から区別している。彼によると、都市コミュニティは規模が大きく、密度が低く、異質性が高いという特徴があり、農村コミュニティは規模が小さく、密度が高く、同質性が高い。この結論は、Beggsら (1996) によって実証的に検証された。彼らの研究により、農村コミュニティの住民のつながりが強く、ネットワークがより密で、近隣の連帯性が強力であるといえる。その一方で、都

市コミュニティの住民のつながりは、より希薄している。

社会学の概念であるコミュニティ（中国語：社区）は、1933年に中国に導入されたが、1986年になって初めて中国民政部が社区サービスの重要性を強調し、その概念が管理実践に初めて取り入れられた(黎&陳 2008; 呉 2010)。欧米や日本とは異なり、中国でのコミュニティの定義は行政の参与と役割を強調している。

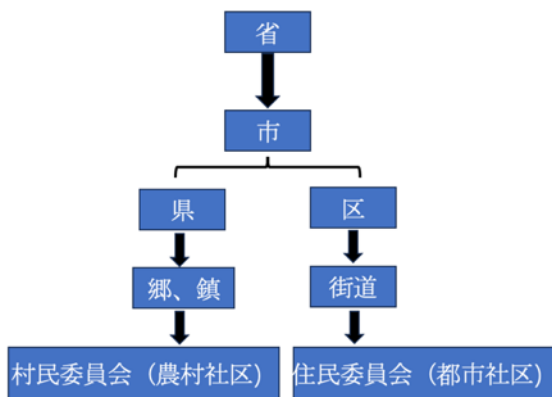


図1 中国の行政体制にコミュニティ「社区」の位置づけ（簡略）

出所：中国政府HP-中華人民共和國行政区画により筆者作成

図1に示される通り、中国のコミュニティは行政システムの末端組織に相当する。都市と農村に分けると、都市コミュニティは街道事務所に属し、基層行政組織である住民委員会によって管理されている。一方、農村コミュニティは郷や鎮の政府に属し、村民委員会によって管理されている。

改革開放政策後、中国の都市化は急速に進み、人口構造や社会ネットワークが変化してきた(黎&陳 2008; 陳&大谷 2021)。前文で述べた都市コミュニティと農村コミュニティ以外に現れた第三のタイプは「移行期コミュニティ」である。都市と農村地域を区別するために、中国国家统计局は「都市・農村分類コード（正式名称：統計用区分コードおよび都市・農村划分コード）」を使用

し、異なる行政区域を分類している。国家統計局はこれらのコードを年毎に更新し、地域の変化や新しい行政区画の配置を反映させる。都市・農村分類コードは17桁で構成され、都市・農村地域の分類は第15～17桁のコードで表される。具体的には、111は都市地域、112-122は都市と農村の移行地域、即ち移行期コミュニティ、210-220は農村地域を指す。具体的なコードは表1に示されている。本研究では、2023年に中国国家統計局が発表した全国都市・農村分類コードのデータを使用する。

表1 都市・農村分類コード

分類コード	地域分類
111	主要都市区域
112	都市と農村の結合部
121	町の中心
122	町と農村の結合部
123	特別区域
210	郷の中心区域
220	村落

中国国家統計局：都市・農村分類コードにより筆者作成。

移行期コミュニティは、都市空間の拡大の産物であり、その発生は多くの発展途上国で急速な都市化プロセスの一部となっている（van Oostrum 2021）。移行期コミュニティは通常、都市と農村の間の郊外にあるか、都市内、特に旧市街地に位置している。移行期のコミュニティの共通の特徴は、住環境が悪く、管理も混乱している（呉 1992; 張 2002; 謝&王 2021）。阿古（2014）により、中国特有の戸籍制度により、農村から都市に移行した出稼ぎ労働者が自らの居場所を見出せず、複雑なアイデンティティを抱えていることが示されている。これにより、出稼ぎ労働者が集住している移行期コミュニティの内部の人口構造が複雑で、人口の流動が頻繁であり、災害に直面している時の脆弱性も高いと判断できる。これまでの研究は通常、都市コミュニティや農村コミュニティに焦点を当てている。しかし、移行期コミュニティの災害

対応の具体的な状況は明らかにされておらず、異なるコミュニティにおけるSCの有効性の違いを探る研究はまだ不足している。

以上の先行研究のレビューを通じて、以下の研究課題が浮かび上がる。都市化の進展に伴って、コミュニティの類型が多様化しつつあるが、これまでと異なるタイプである移行期コミュニティにおける災害対応の実態がいまだ解明されていない。また、3種のコミュニティにおいてそれぞれ発揮される、SCの有効性の特徴の違いに関する比較検討が不十分である。これらの研究課題に基づき、以下の二つの研究問題を設けることとする。

- 1、時間の経過とともに、異なるタイプの被災コミュニティにおけるSCの有効性はどのような違いがあるのか。
- 2、これらの違いがコミュニティ自体の特徴とどのような関連があるか。

2. 調査概要

2.1 研究対象地

河南省は中国中部、華中地方の北寄りに位置し、中国では人口の多い省の一つであり、2021年5月の全国人口センサスのデータによると、総人口は約1億人となっている（鄭州市統計局 2023）。人口構成の多様化により、河南省

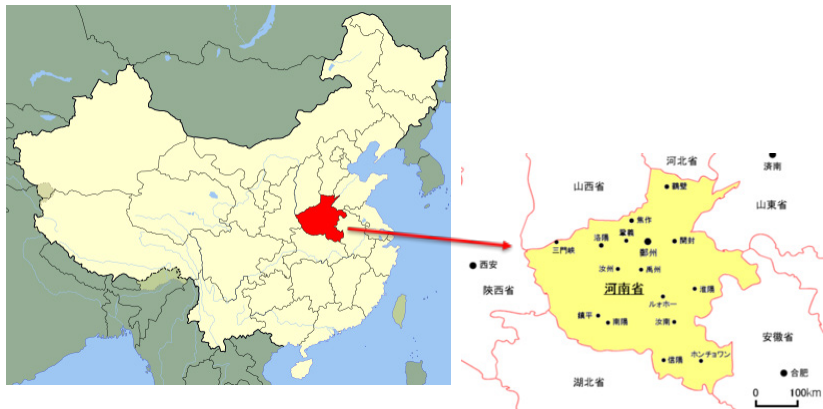


図2 河南省の位置

Baidu mapにより筆者作成

は中国コミュニティの進化の代表的な地域と指摘されている（謝&王 2021）。河南省は洪水災害が頻発する地域であり、2021 年7月に大規模な洪水に見舞われた。

異なるコミュニティにおける SC の有効性を分析するために、本論は最も深刻な被害を受けた地域から以下のコミュニティ A、コミュニティ B、コミュニティ C を選んだ(表2)。

表2 調査対象地

	位置	類別	都市・農村分類コード	歴史	人口
A	鄭州市金水区	都市コミュニティ	111	10 年前後	6016
B	鄭州市金水区	移行期コミュニティ	112	40 年前後	7055
C	鄭州市米河鎮	農村コミュニティ	210	100 年以上	496

中国国家统计局、鄭州市統計局のデータにより筆者作成



図3 三つの調査地の位置
Baidu map により筆者作成

2.2 調査方法

災害後の異なる種類のコミュニティにおける結束型、橋渡し型、リンク型の SC の有効性を分析するために、質的アプローチを用いた。具体的には、

2021年9月～10月(災害直後の緊急期)、2022年9月～10月(災害から1年後の回復期)にかけて、半構造化インタビューと参与観察を用いて3つの調査対象コミュニティからデータを収集した。スノーボールサンプリング法を使用して、3つのコミュニティから調査協力者を選定した。コミュニティ住民(各コミュニティから4人ずつ)とスタッフメンバー(各コミュニティの住民/村民委員会から1人ずつ)の合計12人の住民と3人のスタッフメンバーが選択された。

インタビュー対象者の選定にあたっては、より幅広いデータの代表性を確保するため、性別(女性:8=男性:7)、年齢層などの要素が配慮された。許可を得て半構造化インタビューが録音され、会話は標準語と鄭州方言の両方

表3 調査協力者属性

	年齢	性別	所属 コミュニティ	職業
a1	60s	W	A	無職、孫の世話を手伝う
a2	40s	M	A	清掃員
a3	30s	W	A	タバコ・酒屋の店主
a4	60s	M	A	無職、孫の世話を手伝う
b1	70s	M	B	無職、鄭紡機元従業員
b2	60s	W	B	無職、鄭紡機元従業員
b3	40s	W	B	出稼ぎ労働者、レストランスタッフ
b4	60s	W	B	無職
c1	30s	M	C	自動車整備士
c2	40s	M	C	無職
c3	30s	M	C	飲食店経営者
c4	40s	W	C	スーパースタッフ
J	20s	M	A	住民委員会メンバー
Q	30s	W	B	住民委員会メンバー
N	40s	W	C	村民委員会メンバー

で行われた。住民と住民委員会の調査は別々に実施された。住民委員会スタッフに対するインタビューでは、コミュニティの人口統計、特徴、災害後の救援、復興状況などが含まれた。住民に対するインタビューでは、以下の三つのテーマが取り上げられた。第一に、「7.20」の洪水災害の被害について。第二に、コミュニティの復興の状況とそれに対する被災者の見解。最後に、SCの概念に基づいた場合の、災害後の支援と回復過程についてである。フィールドワークは大阪大学大学院人間科学研究科倫理委員会の承認を得て実施した(登録番号:OUKS2023)。インタビュー対象者の属性は以下の通りである。

2.3 三つのコミュニティの被災状況（2021年）と一年後の回復状況の概要（2022年）

都市コミュニティ Aは、河南省鄭州市中心部の金水区に位置している。2012年以降、比較的整備されたインフラとコミュニティ管理システムが確立されている。Jによると、この地域の人口の大部分は鄭州市で働く住民で、そのほか、労働世代の高齢の両親も住民の一部を占めている。これらの高齢者は一般的には子供たちを助けるように、孫の世話をしている。

このコミュニティは鄭州市中心部で最も被害の大きい地域の一つである。災害発生一年後(2022年9月)、Aは完全に回復しており、被害の形跡は見られなかった。



図4 コミュニティ A外にある土嚢
2021/9/2 筆者撮影



図5 コミュニティ Aでの洪水を防ぐ板
2022/10/3 筆者撮影

移行期コミュニティ Bは、Aと同じように鄭州中心部の金水区に位置している。40年以上前に建てられた旧鄭州紡織工場の従業員住宅だった。家屋の大部分は6階建てで、中に平屋が少し混じっている。金水区政府のホームページのデータと住民のインタビューによると、コミュニティ Bの住民は60歳を超えた元鄭州紡績工場の従業員と出稼ぎ労働者から構成されている。Qのインタビューによると、出稼ぎ労働者が集まっている理由は、都心部に位置し、地下鉄へのアクセスが便利で、家賃も安いことである。

Bの地勢は低く、被害状況は比較的深刻である。2021年9月の調査で赴いたときには、敷地内にある多くの家屋の1階で浸水があった。コミュニティ内の各建物間には、住民らが自ら配線をした電線やネット回線が錯綜している。大雨の際には雨水が電線を通じて家に浸透し、多くの家の内部において湿度が上昇した。2022年になると、Bの状況は2021年とほとんど変わらず、敷地内の水たまりは除去されたが、それ以外に顕著な変化は見られない。



図6 コミュニティ Bの出入り口

2021/9/10 筆者撮影



図6 コミュニティ Bの内部-錯綜した電線

2021/9/10 筆者撮影

農村コミュニティ Cは鄭州市鞏義市に属する米河鎮にある。歴史は百年以上であり、住民のほとんどは生まれも育ちも地元の人である。

Cの被害状況は三つのコミュニティで一番深刻である。Cが位置する米河鎮は、二つの川の合流点に位置している。7月20日の洪水災害後、堤防が崩壊し、町全体で23人が死亡または行方不明になった（中国国務院 2021）。災

害発生から半年後に、河南省政府は米河鎮で「災害後復興プロジェクト部」を立ち上げ、道路や堤防など基礎インフラの復旧を主導したが、筆者が調査を行った2022年10月時点で、復旧工事はまだ進行中であった。Nへのインタビューによると、Cへの主幹道路は災害後一年の2022年7月に修理が完了した。



図8 寸断されている橋
2021/9/16 筆者撮影



図9 米河鎮にある「災害後復興プロジェクト部」
2022/10/10 筆者撮影

3. 調査結果

調査の結果から、災害が発生した2ヶ月後と1年後において、結束型・橋渡し型・リンク型の3つのSCが、それぞれのコミュニティに応じて、異なる特徴を示していたことが判明した。

3.1 都市コミュニティ A

● 災害発生2ヶ月後

既存の結束型SC（親戚、友人、近隣）が災害直後の救援と復旧に重要な役割を果たしたことがわかった。

a4: (災害には) 自分たちで対応したのだ。若い人たちが集まって、被災者を助けたり、荷物を運んだり、土嚢を運んだりした。その後、コミュ

ニティの住民のみんなで相談して、お金を出し合ってポンプを四台買って、これด้วยやく水を抜いた。

a1：雨が止んだ後、一階にいるオヤジが可哀想だと思って、しばらく片付けを手伝った。

a2：コミュニティ内の住民のほとんどは家族のように親しくしている。住民達はみな自発的に災害救助をやった。みんな本当に良い人だな。

橋渡し型SCについて、多くの住民が救援に来たボランティア団体を見たと言った。その他、住民の中には、他のコミュニティからの友達が積極的に助けてくれたと述べた。

a2：山東から来た救援隊がいた。あの日何人かが外に閉じ込められていたが、すべてボランティアと救援隊が救助したんだ

a1：飲料水とパンを配るボランティアがいた。

a3：他のコミュニティの友達が私の地下室を片付けるのを手伝いに来てくれた。彼らがいなかったら、私はいつ片付けることができるかわからない。

リンク型SCについて、住民の多くはコミュニティの住民委員会が災害救助にほとんど役立たないと指摘している。

a1：管理者は何もしていなかった。自分たちで災害救助やったのだ。普段は彼らとあまり交流がない。私は住民委員会のメンバーをほとんど知らない。

a2：コミュニティのウェチャットグループがある。住民委員会の管理者達も入っていたんだ。でもあの日(7.20)には管理者から何の連絡もなかった。

● 災害発生1年後

A 社区は完全に正常に回復した。結束型SCについて、住民間のつながりが災害直後のときと比べて弱くなり、多くの住民は現在コミュニティが主催している活動への参加にほとんど興味がなく、その代わりに、親子での活動を重視していた。親子での活動はAの高齢者が人間関係のネットワークを構築するための手段の一つと言える。

a1：普段は隣人との交流もほとんどなく、自分の生活を送っている。洪水災害の時はお互いに助け合ったが、今は洪水が終わり、自分の生活に戻っている。

a2：普段のコミュニティ活動とかもほとんどないね。

a4：端午の節句には粽を包んだり、中秋節には月餅を食べたりと、普段はわざわざ行くことはないのだが、子どもたちが行きたいと言えば一緒に行くかもしれないね。

災害発生から1年後、橋渡し型SCは継続的な役割を果たしていない。Aの管理者に対するインタビューにより、コミュニティAはボランティア団体とつながりのあるネットワークを持っていない。2021年の救援活動に参加したボランティア団体は、ニュースなどの公式ルートから情報を得ているか、あるいは自発的に救援に来るものも多い。

J：私たちはあれらの救助グループを知らなかった。彼らはニュースを見て来たと言っていた。洪水が引いた後、彼らは去って、その後も戻ってこなかった。

リンク型SCについて、住民委員会のスタッフによると、災害の発生から1年以内に、政府の指導のもと、コミュニティに洪水を防ぐ板などの設備を増設し、洪水対策の知識を普及するパンフレットを配布した。市政府はコミュニティ住民の財産損失状況を登録した。しかし、住民へのインタビューから見ると、市や省政府への不信感を持った住民もいる。

a2: 政府から弁償や補助金を貰えないのだ。損害を登録したことはあるけど、まあまあのことだろう。

a4: 今までも何の(補助金)通知メッセージを受けていない。政府は私たちを考慮する暇もないかも。

3.2 移行期コミュニティ B

● 災害発生2ヶ月後

BにおいてもAと同様に結束型SCが災害直後の救助、復旧に大きな役割を果たした。

b1: 助けを求めるのは、近所の人に決まっている。

b2: うちのコミュニティで何人かで壁に穴を開けたら、水が出るのが早くなった。

b4: 私の家は水がたくさん入っていて、旦那の足が不自由なので、近所の人がいけると手伝ってくれた。

橋渡し型SCについて、Bの住民は、災害後にボランティア団体が訪れて助けを提供することはなかったと述べている。その他、コミュニティBの大半は高齢者で、一人暮らしの人や配偶者と二人同居している人が多く、災害後に利用できるSCは、近隣に住む友人や隣人に限られていた。コミュニティ外のネットワークは限られている。

b1: 他の所からの助けは見当たらなかったんだよ、すべてはうちのコミュニティの人々が自分たちでやったんだ。

b4: 普段交流しているのはこのコミュニティの隣人だけだから、他の所の人は知らない。

リンク型SCに関しても、Aと同様に、Bの住民は、Bの住民委員会が災害直後に適時な支援を提供しなかったと述べた。

- b2:住民委員会は普段から何もしないし、災害時になんて言うまでもない。
b3:住民委員会の人たちが手伝いに来るのを見たことはなかった。

● 災害発生1年後

災害発生から1年後、コミュニティ B内の被災の痕跡はまだ存在しているものの、住民の生活はすでに正常に戻っている。コミュニティ内部の結束型 SCについて、B内に長く住む「鄭紡機」工場の元従業員たちは、長年の知り合いであり、関係が比較的親密である。その一方で、移行期コミュニティである Bには出稼ぎ労働者が多く集まっている。これらの出稼ぎ労働者は団地の元住民との交流が少なく、密接なネットワークを形成することが難しかった。地域住民の中には、出稼ぎ労働者が団地の環境を汚していると非難する者もいる。

- b4:近所の人とも仲がよくて、ふだんは助け合っている。私たち夫婦のように子供と一緒に住んでいない人もたくさんいる。みんな一緒に食事をしたり、病院に行ったりしている。
b1:ここにはもう何年も住んでいるから、年寄りのほとんどは知っているし、買い物にも一緒に行く。どこの家に何があるか私はすべて知っている。
b4:私達のコミュニティの管理は不十分で、コミュニティの外から来る人の質も高くなくて、団地の内部の環境の質と居住の水準がますます悪くなった。
b1:あそこのビルには出稼ぎの人がたくさん住んでいて、私たちもあまり付き合いがない。

そのほか、出稼ぎ労働者自身も、コミュニティに溶け込めないことを表明している。

- b3:ここでは知り合いが少なく、みんな鄭州語を話し、長年の知り合い

ばかりです。私がここに来た当初はまだ鄭州語を話せず、友達を作ることができなかった。

リンク型SCの場合は、Aと似ていて、住民が政府への不信感を表明した。行政管理システムが十分に機能していないと考えている人もいる。Bの住民の回答や管理者Qへのインタビューによると、工場の解体後、Bの管理は数回の変革を経験し、現在の管理体系は混乱に陥っていることがわかる。

また、出稼ぎ労働者たちは政府への不信を表明し、自分たちが地元民ではないために災害後の補助を受けられなかったと考えている。

b2: 10年前、私達の団地は省政府のリタイアメントオフィスに所属していたのだ。当時のコミュニティの活動は本当にすばらしかった。重陽節の活動などがあって、私の大部分の隣人の友達はすべてその時知り合ったのだ。今はだめだ。今はコミュニティ管理になった。コミュニティ管理といっても、コミュニティの人はいくつもの団地を管理していて、私たちをまじめに管理する暇がない。イベントどころか、警備員もない。見ただろう、車もあちこちにあり、ちゃんと駐車もしてないし、今は駄目だ。私たちはリタイアメントオフィスの方がいいと思っている。

Q: このコミュニティは現在少し混乱しており、元々は工場の寮だったが、後にコミュニティに変わった。もともと住民委員会がなく、街道事務所が隣の小区の住民委員会に共同で管理させたが、実際には管理が行き届かず、現在のような状態になった。

b3: 政府からの補助金が出たそうですが、私は鄭州市の戸籍でないのかも、もらえなかった。

3.3 農村コミュニティC

● 災害発生2ヶ月後

結束型SCは災害直後の救援に大きな役割を果たした。

- c1：災害救助の仕事の大部分は我々住民たちで自発的に組織してやったのだ。若者達は皆参加した。
- c2：ここに住んでいる人たちはお互いを知り合っていて、災害が発生した後積極的に助け合う。

橋渡しSCとして、C村の住民は災害後、米河鎮の他の村の住民からの援助を受けたが、それ以外の外地からのボランティアからの援助は受けていなかった。

- c3：私たちの二つの村は同じ町に属しており、町で毎年大きな集会があり、近隣の村の人々が集まり、少しの交流がある。魏xx村（C村と同じ鎮に属する村）は地勢が高く、災害の影響がそれほど大きくなく、私たちを助けに来て、インスタントラーメンを持ってきた。
- c2：救助の人は知り合った人ばかりで、外から来たボランティアとか見えていない。

リンク型SCについて、A、コミュニティBとの違いは、Cの住民は村民委員会との関係が強く、鎮、コミュニティレベル政府（村民委員会）への信頼度も高い。

- c3：親戚がいる人は親戚のところに行って、親戚がいない人はコミュニティに身を寄せて、村民委員会は避難所を提供する。
- c4：このごろ私たちは多くの人が村民委員会と鎮政府が提供してくれる避難所に住んでいる。私たちは普段から村民委員会の人たちと親しいのだ。現在玄関口に置かれている砂袋やレンガも、彼らが手伝って運んできたもの。彼らは色々助けてくれた。

● 災害発生1年後

コミュニティCの被災状況はAやBより深刻で、回復の速度もAやBに比べて遅い。1年間の回復期間中、コミュニティCでは「村民連絡隊」が結成さ

れた。このチームは元々、2021年の洪水時に自発的に組織され、村民の救助や泥の清掃を行った若者たちから成り立っていた。災害発生後の1年間にわたり、彼らは村民の回復に取り組んできた。村委員会は、災害対応と管理を担う「緊急管理」部門を新設し、村民によって自発的に形成された村民連絡チームをコミュニティ C の行政構造に組み込んだ。

c4: 困難があれば、私たちは（村民）連絡チームと連絡し、彼らは手助けしてくれる。現在玄関の前に置かれている土嚢やレンガも、彼らが手伝って運んできたものだ。

N: 村民連絡隊はもともと、2021年7月20日の洪水の際に、村のみんなと一緒に泥を掃除したり、閉じ込められた村民を救出したりした人たちであった。その後、村の修理が遅れ、橋や道路も修理されず、外の物資も村に入らないため、村民連絡隊の人たちはずっと村で手伝いを続けている。その後、私たち（村委員会）も彼らと一緒に取り組むようになり、現在村民連絡隊は村民委員会の緊急管理部に所属しており、彼らも給料をもらえるようになった。

橋渡し型SCについて、コミュニティ C は外部からのさらなる支援を受けていない。

N: おそらく去年（2021年）10月頃、外地のボランティアから救災物資が送られてきたことがあるが、それ以外はなかった。

リンク型について、河南省政府からの災害復興部門がC社区に属する米河鎮に到着し、Cの災害復興作業を主導している。しかし、住民たちの上級政府（省、中央）への信頼度は低い。

c1: 省政府は家を再建する世帯に一世帯につき5万元（約10万円）¹を与えると言っているが、現在に至るまで与えられておらず、恐らく与えられないだろうと思う。私たちの家は自分たちのお金で再建した。

c3: 私の店は災害の被害が非常に深刻で、自分で約十数万をかけて再建したが、政府からの補助は一切なかった。

c4: 中央政府が鄭州を訪れたと聞いたが、鄭州よりも被災の度合いが深刻な米河鎮に来ない理由が何故なのかは分からなかった。

4. 考察

4.1 災害後の異なる段階から見るSCが三つのコミュニティにおける有効性の違い

本研究の結果として、災害後の異なる段階において、異なる被災コミュニティのSCの有効性の違いが明らかになった。

4.1.1 災害発生直後の緊急期

まず、災害発生直後に、3つのコミュニティの結束型SCは比較的に強く、最も大きな役割を果たした。これは先行研究で述べられていることと一致しており (Aldrich 2012; Aldrich & Meyer 2015)、災害後の緊急段階で結束型SCが最大の役割を果たす。

橋渡し型SCの有効性は3つのコミュニティで異なる。都市コミュニティ A と農村コミュニティ C はいずれも外部からの支援を受けた。A は住民の友人や知人、ボランティア団体からの援助を受けた。C は隣接する村落からの援助を受けた。A と C で受けた橋渡し型SCの違いから、A の位置(都心部)の利便性により、援助組織は支援対象として A を優先的に選ぶ傾向にあった。C が受けた支援は、通常の交流がある隣接する村落からのものが多かった。インタビューの結果から、米河鎮では毎年一度の集会があり、周辺の村落が参加しており、この活動が異なる村落間の橋渡し型SCの構築を促進する一定の役割を果たしていることがわかる。一方、コミュニティ B は橋渡し型SCの援助をほとんど受けていない。インタビューの結果から、コミュニティ B には高齢者の比率が高く、特に独居または配偶者と共に生活する「空巢老人²」が多い。高齢者は外部や他のコミュニティのグループとの連絡をあまり取らない傾向がある。また、移行期コミュニティである B が管理体制を欠いており、

それにより、ボランティア団体と連携する手段が不足している。

リンク型SCの有効性もそれぞれ異なる。AとBのインタビュー結果から、住民委員会という基層の政府機関がコミュニティの災害後の救援において役割を果たしていないことが示されている。一方で、農村コミュニティ Cの基層政府機関である村民委員会は比較的大きな役割を果たしている。具体的には、Aは建設年代が比較的新しく、インフラストラクチャが整ったコミュニティとして、3つの調査地の中で最も整備されたコミュニティ管理システムを有していたにもかかわらず、住民委員会と住民のコミュニケーションが不足しており、紐帯と信頼感が希薄である。

コミュニティ Bは建築当初は鄭州市の「鄭紡機」工場の寮であり、建設年代が比較的古い団地である。鄭紡機工場の解体後、このコミュニティは工場宿舎から都市コミュニティへの転換を遂げ、金水区街道事務所の管理下に置かれたが、コミュニティ B内部には住民委員会が設立されず、隣接するコミュニティの住民委員会が共同で管理を行っている。このような変化がコミュニティ Bを管理の混乱状態に陥れた。

一方、A、Bとは異なり、コミュニティ Cの住民は村民委員会への強い信頼感を示していた。その理由として、まずCは農村コミュニティであり、人口構成がAやBより単純で、住民と行政はほぼ顔見知りの関係であるため、信頼感の醸成が促進されている。さらに、洪水災害で最も被害が大きかった地域として、Cには「災害ユートピア」(Solnit 2010) の状態が存在する。つまり、住民は積極的に自助や互助を行い、村民委員会も災害直後のコミュニティ Cの住民の避難や災害直後の再定住に大きな支援を行い、積極的に活動した。これにより、住民との信頼関係や絆がさらに深まったと言える。

4.1.2 災害発生から 1年後の回復期

災害発生から1年後の回復期には、AとBはすでに基本的に正常な状態に戻っていたが、最も被害が大きかったコミュニティ Cはまだ回復途中であった。

結束型SCに関して、コミュニティ Aの住民間の交流は災害後に希薄となった。住民はコミュニティ内の祭りやイベントに参加することにあまり興味を示さず、その一方、コミュニティ Aの住民にとって、親子活動は近隣との関

係ネットワークを築く重要な手段となる。つまり、コミュニティ活動の内容を住民の活動パターンに柔軟に合わせることで、住民の連携と交流を促進することができる。コミュニティ B 内には比較的明確な分断が観察できる。一方、B に長年に居住する高齢者の住民は緊密な紐帯と強い信頼感を有している。しかし、コミュニティ B には多くの外来労働者が居住しており、彼らは B に元々いた住民との間で交流が少ない。この現象が B 内部の結束型 SC の発展に影響を与えている。C の結束型 SC は引き続き役割を果たし、住民自主組織「村民連絡隊」が設立された。調査結果から 2 点の理由が導き出される。まず、コミュニティ C は被害が甚大で、外部との連絡が不便であり、外部への道路が災害から 1 年後まで修理されなかったため、コミュニティ C の人々は自力で災害からの回復を図らざるを得なかった。次に、先行研究 Beggs ほか (1996) が指摘したように、C は農村コミュニティであり、住民のつながりが強く、ネットワークが密で、近隣の連帯感が他のコミュニティタイプより強いことが確認できた。

次に、橋渡し型 SC に関して、調査結果からは、都市コミュニティ、移行期コミュニティ、農村コミュニティに関わらず、橋渡し型 SC は持続的な役割を果たしていないことが明らかになった。現在の災害後の救援体系では、横の助け合いがまだ強化される必要があることが示唆されている。

最後に、リンク型 SC に関して、3 つのコミュニティはそれぞれ異なる表現を示している。都市コミュニティ A は災害後の 1 年間で政府から一定の支援を受け、主にコミュニティ内の防洪設備の設置などであった。移行期コミュニティ B は政府からの支援を受けておらず、管理体系の混乱がコミュニティ B のリンク型 SC の発展を妨げていることがわかる。農村コミュニティ C に関しては、省政府が C のある鎮に災害後の再建プロジェクト部を設立し、基礎インフラの再建を主導している。しかし、住民は政府から生活再建に必要な補助金などの支援を受けておらず、これが C の住民が市や省などの上位政府に対して不信の態度を示す原因となっている。

4.2 各コミュニティにおけるSCの有効性の違いとコミュニティの特性との関連性

前述の通り、各コミュニティにおけるSCの有効性は、その置かれた背景によって異なる（Dasgupta 2005; Szreterほか 2004; Putnam 2000; Yila & Weber 2013; 蔡 2016）。SCのこの特性は「環境依存性」と呼ばれている（Bernier & Meinzen-Dick 2014; 蔡 2016）。異なる環境や背景の下で、災害後の救援や回復におけるSCの有効性には差異が存在する。本稿ではこの見解を裏付ける事例を提示している。

都市コミュニティ Aの回復過程におけるSCの主な特徴は、持続性の欠如である。災害直後の緊急期には、結束型SCや橋渡し型SCが役割を果たしたが、災害発生から1年後、災害によって構築された住民間の関係は徐々に薄れ、SCの持続的な効果が限られている。都市コミュニティの特性から見れば、優れた地理的位置と整備されたコミュニティ管理システムが災害後の迅速な回復を可能にするが、住民委員会とのコミュニケーション不足や住民間における交流の場の欠如がSCの安定した発展を妨げている。

移行期コミュニティ Bの災害後の回復におけるSCの主な特徴は、混乱と非効率性である。災害直後の緊急期には結束型SCがある程度の役割を果たしたが、他のタイプのSCは効果を示さなかった。この状態は災害後1年間続き、加えて結束型SCも分裂している。コミュニティの特性から見れば、内部の住民関係の分断、コミュニティ活性化の欠如、管理の混乱が橋渡し型SCやリンク型SCの構築を困難にしている原因になっている。

農村コミュニティ Cの災害後の回復におけるSCの有効性の主な特徴は、内部ネットワークの密接さと外部の資源へのアクセスの困難さである。災害直後の緊急期には、コミュニティ内の結束型SC、隣接村落との橋渡し型SC、地方政府とのリンク型SCが効果を発揮した。災害発生から1年後も、結束型SCや地方政府とのリンク型SCが引き続き効果を示している。しかし、辺鄙な場所に位置することと交通の不便さが外部からの支援を受ける機会を制限している。

三つのコミュニティの比較分析から、異なるコミュニティ背景下で、内部の人間関係、管理システム、地理的位置などの要因の違いにより、SCの有効

性に差異があることがわかる。この結果は中国のコミュニティ災害対応にとって意義がある。まず、災害対応においては、多種類のSCの蓄積が重要である。すなわち、横断的および縦断的なSCの両方が重要であり、結束型、橋渡し型、リンク型のSCが豊富であることが、コミュニティの災害対応能力を向上させる。また、SCの環境依存の特性を踏まえて、SCが災害対応に果たす役割を認識すると同時に、その環境依存性と有効性の複雑さを理解する必要もある。特定の背景におけるSCの機能を具体的に理解することによってのみ、SCの効果を客観的に判断することが可能になる。

終わりに

災害が頻発する背景の下で、SCはコミュニティの災害対応力向上に不可欠な役割を果たしている。しかし、SCは地域性があり、その有効性は社会環境の差異によって異なる可能性がある。本研究では、質的なアプローチを使い、中国河南省の都市、移行期、農村コミュニティにおけるSCの有効性の差異を探究した。調査結果の分析により、コミュニティのタイプによってSCの有効性に顕著な差異が見られた。都市コミュニティ A ではSCの持続性が欠けていて、移行期コミュニティ B ではSCが混乱と非効率性を示している。農村コミュニティ C では、内部ネットワークの密接さがSCの有効性を支えているものの、外部資源へのアクセスの困難さが課題となっている。

この結果は、異なるタイプのコミュニティにおける災害対応と回復戦略において、SCの役割がそれぞれ異なっていると認識する必要性があることを示唆している。災害対策計画においては、多様なSCの蓄積と地域固有の特徴を踏まえたローカルな視点からのアプローチが重要である。

この研究はいくつかの限界がある。第一に、COVID-19のパンデミックによる制約のため、本研究で実施したインタビューの数は比較的少なかった。インタビュー対象者を集めるために用いたスノーボールサンプリング法は、潜在的なバイアスをもたらし、調査結果の代表性を損なう可能性がある。第二に、本稿の調査では、同じ市に所属する3つのコミュニティだけを調査対象として選んだが、実際には、同じタイプのコミュニティでも、より多く

の居住形態に分けることができる。例えば、移行期コミュニティは、「城中村」や「廉価住宅団地」などの形態がある。今後の調査では、さらに多くのコミュニティ形態を含めることで、研究結果がより一般的なものとなるよう努力するべきである。

謝辞

本研究に協力いただいた河南省のコミュニティ A、B、Cの方々に感謝いたします。

注

- 1 2024年1月の日本円と人民元の為替レートを参照
- 2 空巢老人：高齢者のひとり暮らし(または二人暮らし)

参考文献

日本語

阿古智子

2014 『貧者を喰らう国—中国格差社会からの警告』新潮社。

今井良広・金川幸司・後房雄.

2015 「コミュニティ・レジリエンスとソーシャル・キャピタル：南三陸町における震災復興の取り組みから」『経営と情報：静岡県立大学・経営情報学部研究紀要』27（2）：1-24。

稲葉陽二・吉野諒三

2016 『ソーシャル・キャピタルの世界』ミネルヴァ書房。

大谷順子

2021 『四川大地震から学ぶ—復興のなかのコミュニティと中国式レジリエンスの構築』九州大学出版会。

佐々木由理・相田潤・三浦宏子

2020 「日本の公衆衛生における最新のトピック 2020 被災地におけるソーシャルキャピタルの役割」『保健医療科学』69（1）:25-32。

埴淵知哉

2018 『社会関係資本の地域分析』ナカニシヤ出版。

陳逸璇・大谷順子

- 2021 「中国の集団移転コミュニティの防災から見る災害レジリエンスの構築：四川省における2つの事例を通して」『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』47：225-244。

中国語

蔡長昆

- 2016 <自然灾害治理過程中社会資本的結構性差異>《公共行政評論》9(1)：55-85。

大谷順子

- 2013 <从社会关系資本的視角考察灾区臨時住宅及重建住宅的社区形成—阪神淡路大地震福岡西海岸地震，四川大地震，東日本大地震的比較> 陳立行等編著《地震、救援、重建的中日比較研究—全球化与社会关系資本的視角》93-119。

黎熙元・陳福平

- 2008 <社区論弁：轉型期中国城市社区的形態轉變>《社会学研究》2：192-217。

吳縛龍

- 1992 <中国城市社区的類型及其性質>《城市問題》24—27。

吳文藻

- 2010 《論社会学中国化》商務印書館。

謝桂華・王小榕

- 2021 <城市化進程中的社区社会关系轉變>《社会学評論》9(3)：120-142。

張鴻雁

- 2002 <論当代中国城市社区分异与变迁的現狀及發展趨勢>《規劃師》5—8。

英語

Aldrich D P

- 2012 *Building resilience: Social capital in post-disaster recovery*. University of Chicago Press.

Aldrich D P & Meyer M A

- 2015 Social capital and community resilience, *American behavioral Scientist*, 59(2)：254-269.

Beggs J J, Haines V A & Hurlbert J S

- 1996 Revisiting the rural - urban contrast: Personal networks in nonmetropolitan and metropolitan settings 1. *Rural sociology*, 61(2)：306-325.

Bernier Q & Meinzen-Dick R

- 2014 Social capital and resilience. *Resilience for Food and Nutrition Security*, 169.

Christenson J A & Robinson J W

- 1989 *Community development in perspective*. Iowa State University Press.

Claridge T

2018 Functions of social capital—bonding, bridging, linking, *Social capital research*, 20 : 1-7.

Crow G P & Allan G

1995 Community types, community typologies and community time. *Time & Society*, 4(2) : 147-166.

Cutter S L, Ash K D & Emrich C T

2016 Urban—rural differences in disaster resilience. *Annals of the American Association of Geographers*, 106(6) : 1236-1252.

Dasgupta P

2005 Economics of social capital, *Economic Record*, 81, S2-S21.

Ganapati N E

2013 Downsides of social capital for women during disaster recovery: toward a more critical approach, *Administration & Society*, 45(1) : 72-96.

Grootaert C & Van Bastelaer T

2001 Understanding and measuring social capital: A synthesis of findings and recommendations from the social capital initiative (Vol. 24). Washington, DC: World Bank, *Social Development Family, Environmentally and Socially Sustainable Development Network*.

Healy T

2002 The measurement of social capital at international level. *Social Capital: The Challenge of International Measurement Series of the Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD)*. Paris: OECD. URL: <http://www.oecd.org/dataoecd/1/60/2380281.pdf>.

Lin N A

2008 Network theory of social capital, *The handbook of social capital*, 50(1) : 69.

Mohan J, Twigg L, Barnard S & Jones K

2005 Social capital, geography and health: a small-area analysis for England. *Social Science & medicine*, 60(6): 1267-1283.

Norris F H, Stevens S P & Pfefferbaum B

2008 Community resilience as a metaphor, theory, set of capacities, and strategy for disaster readiness, *American journal of community psychology*, 41(1) : 127-150.

Onyx J, Edwards M & Bullen P

2007 The intersection of social capital and power: An application to rural communities, *Rural Society*, 17(3) : 215-230.

Putnam R D

- 1993 *Making Democracy Work: Civic Traditions In Modern Italy*, Princeton university press.
- 2000 *Bowling alone: The Collapse and Revival of American Community*, Simon & Schuster.
- Rapaport C, Hornik-Lurie T, Cohen O, Lahad M, Leykin D & Aharonson-Daniel L
 2018 The relationship between community type and community resilience. *International journal of disaster risk reduction*, 31 : 470-477.
- Solnit, R
 2010 *A paradise built in hell: The extraordinary communities that arise in disaster*, Penguin.
- Szreter S & Woolcock M
 2004 Health by association? Social capital, social theory, and the political economy of public health, *International journal of epidemiology*, 33(4) : 650-667.
- Uphoff N
 2000 Understanding social capital: learning from the analysis and experience of participation. *Social capital: A multifaceted perspective*, 6(2): 215-249.
- van Oostrum, M
 2021 Access, density and mix of informal settlement: Comparing urban villages in China and India. *Cities*, 117 : 103334.
- Williamson T
 2013 Beyond social capital: Social justice in recovery and resilience, *Risk, Hazards & Crisis in Public Policy*, 4(1): 28-31.
- Wirth L
 1938 Urbanism as a Way of Life. *American journal of sociology*, 44(1): 1-24.
- Yila O M & Weber E
 2013 The role of social capital in post-flood recovery in Ba District, Western Viti Levu, Fiji Islands, *The Journal of Pacific Studies*, 33 : 116-137.
- Web サイト
 中国国务院
 2021 「河南鄭州「7・20」大規模豪雨災害調査報告」
<https://www.mem.gov.cn/gk/sgcc/tbzdsgdcbg/202201/P020220121639049697767.pdf>
 (最終アクセス日 2024/01/16)
- 中国国家统计局
 2005 中華人民共和國行政區劃 https://www.gov.cn/guoqing/200509/13/content_5043917.html (最終アクセス 2024/01/15)
- 2023 年度全國都市・農村分類コード

<https://www.stats.gov.cn/sj/tjbz/tjyqhdmhcxhfdm/2023/index.html>（最終アクセス日
2024/01/24）

鄭州市統計局

2023 河南省概況

<https://tjj.zhengzhou.gov.cn/>（最終アクセス日 2024/01/23）

Differences in the Effectiveness of Social Capital in Disaster-Affected Communities in China: Focusing on the Comparison of Urban, Transitional, and Rural Communities

Wang Yixuan

Abstract

Social Capital (SC) is a commonly used concept in disaster response studies. SC is characterized by regional attributes, and its effectiveness can vary depending on the different characteristics of communities. In rapidly urbanizing developing countries like China, the massive migration from rural to urban areas has led to the emergence of new 'transitional communities.' However, there is a lack of research on how SC's role changes when these different types of communities face disasters. This study, using a qualitative approach, focuses on the effectiveness of SC in urban, transitional, and rural communities in flood-affected areas of Henan Province, China. It found that immediately after a disaster, bonding SC plays a crucial role in all communities. Over time, linking SC gradually becomes more effective. However, the effectiveness of SC varies by community type, and not all communities exhibit similar effects. Urban communities, due to their geographical advantages, can receive more external assistance but tend to experience a dilution of bonding SC post-disaster. Transitional communities, characterized by complexity and instability, show low effectiveness of SC due to confused community management and fragmented resident relations. Rural communities, with close internal connections, benefited from both bonding SC and linking SC with local governments, but their remote locations and inconvenient transportation limit external support.

Keywords : Social Capital (SC), Urban Community, Transitional Community, Rural Community, 2021 Henan Floods